

## 小学校、中学校における不登校の状況

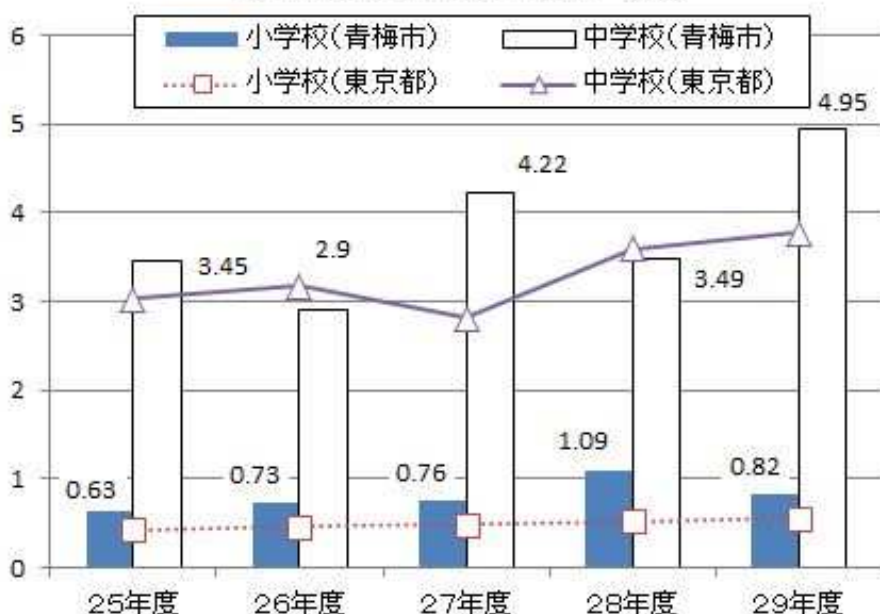
青梅市教育委員会

<不登校の定義> 平成29年4月1日から平成30年3月31日までに30日以上欠席した長期欠席児童・生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあることをいう。(ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。)

項目	学校数 (不登校在籍学校数)		不登校児童・生徒数		出現率 (%)		学校復帰率 (%)	
	青梅市	東京都	青梅市	東京都	青梅市	東京都	青梅市	東京都
小学校	17 (16)	1,282 (1,025)	52	3,226	0.82	0.56	36.5	25.6
中学校	11 (9)	625 (609)	170	8,762	4.95	3.78	27.1	20.1

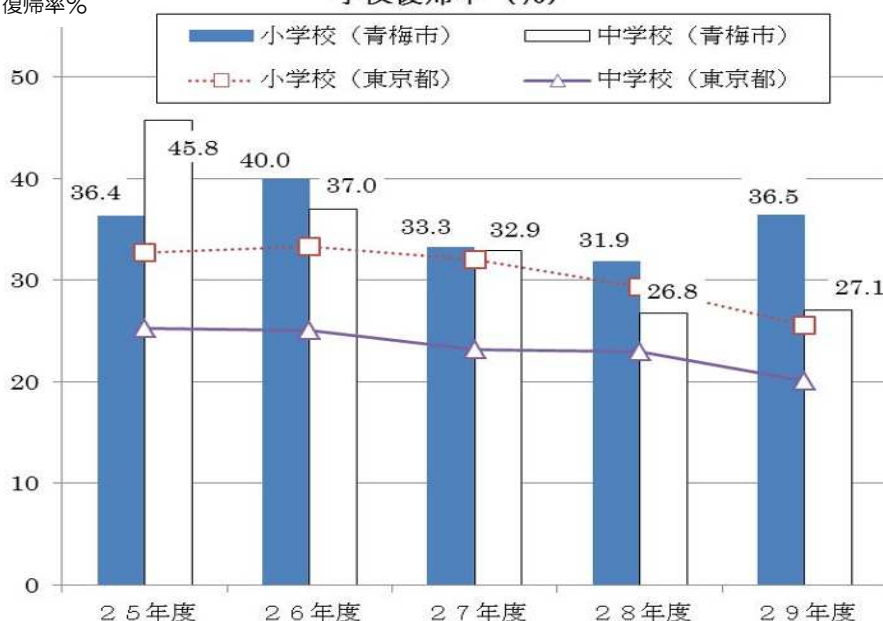
出現率%

不登校児童・生徒の出現率 (%)



復帰率%

学校復帰率 (%)



**【特徴】**

- 不登校児童・生徒の出現率は、小学校では大きな変化はなく、中学校で増加した。
- 不登校になったきっかけは、不安など情緒的混乱が、最も多く、その他は病気による欠席、学習理解に係る理由もある。
- 学校復帰に効果のあった措置として、スクールソーシャルワーカー(S・S・W)を活用した取組(迎えに行く・家庭訪問)やスクールカウンセラー(S・C)による相談があげられる。少数ではあるが、保健室登校、相談機関との連携により復帰が可能となった事例もある。

**【対応】**

- S・Cの活用と相談体制の充実
- S・S・Wによる家庭訪問等の支援
- 個票を活用した個々の状況に応じたきめ細かな支援の充実
- 「ふれあい月間」における不登校児童・生徒への重点的なかかわりの充実
- 「ふれあい学級」における学校復帰支援
- 登校が安定するまで、保健室・別室登校などの個別対応



報道資料

2019年4月17日  
NHK広報局

NHKスペシャル

## シリーズ 教室の“声なき声”

### 第1回 いじめと探偵 ～6,000件の“助けて”～

2019年5月19日(日)午後9:00～9:49(総合テレビ)

教室では口に出せない子どもたちの本音、“声なき声”に耳を傾ける2本シリーズ。第1回は、認知件数が41万件と過去最多となった「いじめ」(全国の小中高など・2017年度)について考える。

さまざまな対策にもかかわらず、未だ事態を打開できない中、いじめの実態調査の依頼が全国から殺到する場所がある。東京にある、その“探偵事務所”は、もともと浮気や企業の内偵調査を行っていたが、15年ほど前から、いじめの調査依頼が増え始め、今では専門のNPO法人を立ち上げるまでになった。学校や教育委員会に相談しても解決せず、行き場を失った子どもや親たちから、これまで実に6000件以上の相談が集まっているという。調査は実践的で、SNSの監視から、尾行・張り込み、情報公開請求など、さまざまな手段を駆使していじめの実態を探り、ケースごとに解決策を模索する。

調査から見えてくるのは、現代のいじめがいかに巧妙化し、見えにくくなっているか。そして、その異変に対応できなくなっている教育現場の姿だ。全国でも例のない“いじめ探偵”に密着し、どこにも届かない子どもたちの“助けて”を見つめていく。

### 第2回 学校へ行きたくない

～中学生 43万人の心の声～

2019年5月30日(木)午後10:00～11:18(総合テレビ)

シリーズ「教室の声なき声」、第2回は増え続ける「不登校」について生放送で考える。去年、教育の現場で新たな課題が表面化し、関係者に衝撃を与えた。「登校しても教室に入れない」「教室で苦痛に耐えているだけ」という、“隠れ不登校”ともいえる中学生が推計で約33万人もいることが明らかになったのだ。不登校の約10万人に加え、計43万人にも上る中学生が“学校へ行きたくない”と考えている現実。

いま、こうした声を学校への“NOサイン”だと捉え、公教育の枠組みを大きく見直す模索が広島県で始まっている。去年4月、福山市の公立中学校に「校内フリースクール」を設置。さらに、子どもたち個々の違いを尊重する教育で知られるオランダの現場を視察し、公立学校への導入を決めるなど、新たな施策を次々と打ち出している。番組では、学校現場の模索を1年間にわたり密着取材。さらに、日々子どもたちと向き合うNPOや財団法人と連携し、生放送で中学生たちの声を集めるなど双方向の演出も取り入れながら、“教室の声なき声”に耳を傾ける。



シリーズ「教室の声なき声」、第2回は増え続ける「不登校」について生放送で考える。去年、教育の現場で新たな課題が表面化し、関係者に衝撃を与えた。「登校しても教室に入れない」「教室で苦痛に耐えているだけ」という、「隠れ不登校」ともいえる中学生が推計で約33万人もいることが明らかになったのだ。



不登校の約11万人に加え、計44万人にも上る中学生が“学校へ行きたくない”と考えている現実。いま、こうした声を学校への“NOサイン”だと捉え、公教育の枠組みを大きく見直す模索が広島県で始まっている。去年4月、福山市の公立中学校に「校内フリースクール」を設置。さらに、子どもたち個々の違いを尊重する教育で知られるオランダの現場を視察し、公立学校への導入を決めるなど、新たな施策を次々と打ち出している。番組では、学校現場の模索を1年間にわたり密着取材。さらに、日々子どもたちと向き合うNPOと連携し、生放送で中学生たちの声を集めるなど双方向の演出も取り入れながら、“教室の声なき声”に耳を傾ける。



## 「きらりルーム」を活用した長期欠席者ゼロの取組について

シェア

Tweet

LINEで送る



印刷用ページを表示する

掲載日：2018年9月12日更

新

### 「きらりルーム」とは

各学校は、全ての子どもたちが、毎日、笑顔で元気に登校し、日々の授業を中心とした教育活動を通して、21世紀型“スキル&倫理観”の育成に向け取り組んでいます。

欠席が多い児童生徒へは、担任が中心となって家庭訪問を実施したり、適応指導教室等の関係機関と連携したりするなど、登校に向けた取組を進めています。

今年度から、欠席者数の多い5つの中学校の校内に新たな居場所として「きらりルーム」をつくり、生徒が自分のペースで学習したり、スポーツや制作活動などをしたりしています。

専任の担任、学校支援員、学校相談員を配置し、本人や保護者の願いを聞きながら、一人一人の状況に応じた取組を進めています。



カーペットやカーテン等を工夫したことで居心地のよい空間となっています。



きらりルーム専用の机を使って、個別学習、グループ学習を行っています。

2019/05/30 NHK 総合 【あさイチ】

### 中学生で11万人「不登校」学校現場はいま

文部科学省の調査によると中学生の不登校は全国で約11万人。

登校しても教室に入れず保健室で過ごすなどしている隠れ不登校と呼ばれる生徒は33万人に上るとみられている（日本財団推計）。

市立城東中学校（広島県福山市）では1年前、ふれあいルームという新しいスペースを作った。

様々な理由で不登校になったり学校には来ても教室に入れなかったりする生徒達が自分のペースで学校生活を送るための場所。

去年1年間で12人の生徒がふれあいルームを利用した。

ベテランの教師が担任を務め、それぞれの生徒の進み具合に合わせ勉強をサポートする。

時間割はなく、いつ何を勉強するかは生徒が自分で決める。

ふれあいルームに来れば、その日は出席あつかいとなる。

学期末などには他の生徒と同じ定期テストを受ける。

ふれあいルームでは生徒の個別の事情に対応することで1人でも多くの子どもに居場所をつくりたいと考えている。

福山市では去年4月に5つの中学校に校内フリースクールを設置。

年間30日以上休む長期欠席の生徒が減少した。

今年度からは広島県内の他の自治体でも導入が進められている。

福山市では校内フリースクールだけではなく授業の進め方を見直す取り組みも始めている。

産経ニュース 2017.1.17 07:09 更新

### 横浜の市立中、不登校児を学校で受け入れる「特別支援教室」で効果

フリースクールなど学校以外の場で学ぶ不登校の子供の支援などを目的とした教育機会確保法が、昨年12月7日の参院本会議で可決、成立した。今後、不登校の子供の教育機会の確保のため、国や自治体が必要な財政支援に努めることなどが盛り込まれているが、それに先駆け、横浜市内のある中学校では、新たな不登校児対策に乗り出し、成果を挙げつつある。

不登校児を学校で受け入れる「特別支援教室」を昨年4月に新設したのは、横浜市都筑区の市立中川西中学校。市内最大規模の1044人が在籍するマンモス校の校舎の中で、特別支援教室があるのは、裏門の出入り口からすぐそばにある旧英語少人数教室の1室だ。

#### ◆登校したいけど…

これにより、例えばいじめを受けていた生徒が同級生に会わずに教室まで行くことができる配慮がなされている。教室内には、PTAらの協力で壁を明るい白で塗り、イケア製のおしゃれな家具などが自由にレイアウトされているほか、パーテーションもあって、人目に触れずに学習する生徒もいる。

正規職員の教諭2人に加え、週3回指導する非常勤講師も専任でおり、生徒自身に合った勉強内容や進め方、少人数で学習できる仕組みがとられている。

例えば、小学校高学年時に引きこもりとなり、家でゲームばかりしていたために、昼夜逆転の生活スタイルをとる生徒の場合は、昼前に登校し、学習や、同教室の生徒らとの近隣公園でのバレーボールなどの活動をして夕方帰宅する、といった光景もみられる。

通常の教室への登校が難しく、勉強も遅れていたある生徒は、「こうした場所があって、とてもうれしい。早く英語のスペルを覚えたい」と意欲をみせていた。

同教室は、「学校には行きたいけれど、皆がいる教室には行きたくない」「勉強はしたいが大勢の人と顔を合わせたくない」「授業についていけない」といった悩みを抱える生徒を広く受け入れている。

現在は、常時利用者が9人、場合によって学習支援で教室を利用する生徒が25人いる。

◆ “生み”の苦労も

不登校児は横浜市立中学校全体で2338人（平成27年度）いる。ただ、同教室の制度を27年4月の校長就任から約1年間かけて整えた同校の平川理恵校長によると、「1～3年生までで27クラスあり、27年度末に30人近くいた不登校児は現在7人にまで減少した」とし、新たな仕組みの効果の芽が出ていると説明する。

もつとも、平川校長は大きな苦労もした。この教室を作る際、教員の人員増はできなかったためだ。実際、専任教諭を確保するためにとったのは、全教諭の授業コマ数をそれぞれ1～2コマ増やして手当てするという手法だ。

当初は難色を示す教諭もいたが、不登校児が減少することで、従来、不登校児の対応に追われていた担任の負担が減ることもあり、「今では、全教諭が支援教室への理解を深め、むしろ、質を高めようという流れにある」という。

平川校長は、「各学校にさまざまな課題はあると思うが、今の時代に『特別支援』が必要だと実感できるかにかかっている」とし、他校にも同様の取り組みが広がることに期待を寄せている。（那須慎一）



福山市教育委員会



## スクールカウンセリングプロジェクト



シェア



Tweet



LINEで送る



印刷用ページを表示する

掲載日

### 1 事業説明

福山市には、市内公立小中学校のお子さんの不登校などに対応する学校相談員がいます。学校相談員はご家庭と学校の先生と連絡を取りながら、次のことに取り組んでいます。

- 電話や来校による相談への対応
- 登校できないお子さんのご自宅への家庭訪問
- 小中学校への学校訪問
- 専門機関の紹介（必要に応じて）
- 交流活動（調理、スポーツ、デイキャンプ等）
- 保護者会（情報交流、講演会、座談会等）

→ [くわしくはこちら](#)

### 2 昨年度の様子

[6月 交流会 「浜辺の活動」](#)

[6月 全体保護者会 「講演会」](#)

[7月 全体保護者会 「進路」](#)

[8月 全体交流会 「調理実習」](#)

[10月 全体交流会 「デイキャンプ」](#)

[11月 全体交流会 「スポーツ」](#)

## SCP 交流会

# ★浜辺の活動

～内海中学校「学習の浜」にて～

6月8日快晴の空の下、児童生徒、保護者 34名の参加で今年度最初の活動を行いました。



内海大橋と素晴らしい眺めが、迎えてくれました。

活動前半では体育館をお借りして、トランプ、ウノ、ジェンガ、フライングディスクをしたり、お弁当を食べたりし、潮が引くのを待ちました。初めて会った子どもたちも次第に場の雰囲気に慣れ交流する姿も見られました。



午後は浜辺で散策や生き物の観察、潮干狩りを楽しみました。



海、空、浜辺に囲まれて…



大きなあさりを探します。  
小さなあさは、まだまだ大きくなるので、海に返しました。



散策できれいな貝や珍しいカニを見つけることができました。

### 感想

(児童・生徒)

- ・あさがたくさん採れたのでうれしかったです。
- ・あまりできないことができたのでよかったです。
- ・他の人と話せたり、たくさん採れてうれしかったです。
- ・晴れてとても暑い日だったけど、楽しく活動できました。
- ・たくさん採れてほめてもらったので、参加してよかったです。

(保護者)

- ・いつも家の中ばかりにいるので、まわりの人に普通に話しかけている様子に少し驚きました。外の気持ちよさに気づいてくれたのではと思います。
- ・普段部屋の中にいる姿しか見ませんが、久しぶりに外で活動する姿を見ることができました。わが子の外での姿を見れてうれしい限りです。
- ・いつも家に引きこもっているのに、大好きな潮干狩りで外の空気もたくさん吸って、あさりもたくさん採れて楽しく活動できました。
- ・日頃一緒に何かをすることが難しいのですが、大勢の中で貝を掘る姿に成長を感じました。



## SCP 交流会

# ★調理活動

～ 本庄コミュニティ・駅家公民館 にて～

8月18日と8月29日、会場を2か所に設け、児童生徒、保護者30名の参加で調理活動を行いました。



缶切りやりんごの皮むきに初チャレンジ！コツをつかみ上手にできていました。



ぎょうざの皮を使った『簡単ピザ』と呉だくさんの『フルーツヨーグルト』を作りました。

違う学校の人とグループになり、役割分担をするなど協力し合って、子どもたちの力で作ることができました。



トッピングしやすいように、食べやすいようにと、大きさや切り方を工夫していました。



ピザは思い思いにトッピングし、フライパンやホットプレートで焼きました。



チーズがとろりと溶けたら簡単ピザの出来上がり！デザートは、フルーツとヨーグルトを混ぜ合わせたら完成です。

### 感想

#### (児童生徒)

- 他の学校の人とも話ができ、作った物もおいしくてよかったです。
- 自分はあまり協力できないと思っていたけど、意外とできたからよかったです。
- 久しぶりに屋間に外出することができました。
- 友だちと外に出られてうれしいです。
- 人とたくさん話せたので、参加してよかったなと思いました。
- みんなと協力して、楽しく自然に話ができよかったです。
- 楽しく、料理も簡単にできておいしかったです。

#### (保護者)

- 交流会に初めて参加しましたが、和やかな雰囲気です。
- 子どもに任せてもらえる環境がありがたいです。
- 子どもが家でも出来そうなメニューなので、今度は家族のために子どもと一緒に作ってみたいと思います。
- 子どもたちが思っていたよりテキパキ動いていたので感心しました。
- 子どもたちがすすんで調理をしている姿がほほえましく思えました。
- 初めての野菜の切り方も頑張って挑戦し、経験できたのでよかったです。
- 一年前に参加させて頂いた時には、部屋に入ることさえ難しかったけれど、今回はみんなの中に参加することができました。成長した姿を見られてよかったです。
- 家ではあまり手伝いをしない我が子が、野菜を切ることを最後まで頑張っていたのでよかったです。

